

# Effectiveness of Saireito for improving swelling of lower extremities after total hip arthroplasty

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 葉子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003636">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003636</a>

## 論文内容の要約

順天堂大学	博士 (医学)	氏名	伊藤 葉子
論文題名	柴苓湯による人工股関節全置換術後の下肢腫脹軽減効果の検討		
	Effectiveness of Saireito for improving swelling of lower extremities after total hip arthroplasty		

### 論文内容の要約 (1,000字～1,500字)

【目的】人工股関節全置換術(Total Hip Arthroplasty:THA)の術後合併症として下肢の腫脹があり、疼痛遷延やリハビリテーションの停滞をきたすことが知られている。柴苓湯は抗炎症作用と利尿作用を持つ漢方製剤であり、術後・外傷後浮腫や滑液包炎に使用され改善が得られたという報告がある。YHA術後症例において、柴苓湯による術後の下肢腫脹の軽減効果を明らかにすることを目的に、柴苓湯が患肢の腫脹の改善や生化学検査に及ぼす影響について比較検討した。

【方法】対象は当科で2019年5月～2023年8月までにTHAを施行した212例であり、男性25名、女性187名、年齢は42歳から89歳までの平均年齢67.4歳であった。対象者を無作為に柴苓湯非内服群(A群)104例と内服群(B群)108例の2群に分けた。A群は柴苓湯エキス顆粒9.0gを1日3回毎食前に服用し、期間は術前日から術日を除いて7日間投与した。術後3・7・14日後の血清C-reactive protein(CRP)、Hemoglobin(Hb)、術後7・14日後の血中D-dimer、術後血栓の有無、Visual Analog Scale (VAS)による疼痛・腫脹の評価、術前と術後1・2週目の下肢周囲径(膝蓋骨上縁から10cm近位部・下腿最大・下腿最小)の変化率を評価した。統計解析はT検定を用い、p値は0.05未満を有意差ありとした。解析ソフトはEZRを使用した。

【結果】術後14日目までの採血において、CRP、Hb、D-dimerは両群に有意差を認めず、術後血栓の発生にも有意差を認めなかった。また、VASでの疼痛と腫脹にも両群に有意差を認めなかった。術後7日目の下肢周囲径はいずれの部位でも両群に有意差を認めなかったが、術後14日目の下肢周囲径の変化率は、大腿部にA群の平均 $-8.41 \pm 30.3\%$ に対しB群が $-18.9 \pm 40.1\%$ ( $p=0.032$ )、下腿最大部でもA群の平均 $-9.3 \pm 29.8\%$ に対しB群が $-19.0 \pm 40.1\%$ ( $p=0.046$ )、そして下腿最小部でもA群の平均 $-7.3 \pm 30.6\%$ に対しB群が $-17.4 \pm 41.0\%$ ( $p=0.044$ )と、B群がA群よりも有意に改善した。柴苓湯投与によると思われる明らかな副作用は、両群間ともに投与期間中には認めなかった。

【考察】THA術後の下肢の腫脹は疼痛遷延やリハビリテーションの停滞を認めること多く、これらを改善することで早期離床や早期退院を目指すことができる。今回の研究においては、柴苓湯の投与による、血液生化学検査所見や術後血栓の発生、またはVASでの腫脹・疼痛への効果は認められなかったが、術後14日目の下肢の腫脹の改善効果を認めた。これは柴苓湯の抗炎症作用や利尿作用によるものと考えられる。以上より、柴苓湯は、THA後の腫脹を早期に軽減させることで、術後のリハビリテーションを促進し、患者の早期の社会復帰につながる効果がある可能性があると考えられた。